

令和4年度

# 印西市民アカデミーだより

第12号

## 講座 12：歴史散策④瀬戸地区

10月28日（金）午後3時、ダイヤモンド富士の絶景が見られる瀬戸の徳称院を目指し、印旛公民館を出発。途中、由緒ある神社仏閣に立ち寄りながら、深まりゆく秋を感じながら散策しました。

最初に立ち寄ったのは、**無量壽山願定院本願寺**（天台宗）。本堂右手奥にある紅く塗られた馬頭観音堂は、「日本無双開運出世馬頭観音」として広く信仰されてきました。お堂の正面には、白馬の彫刻が飾られていて、思わず紅白のコントラストに魅入ってしまいます。この地区には、白馬にまつわる伝承があることから、こんな立派な馬頭観音堂が建立されたのでしょうか？お堂の左手に「獣魂碑」という大きな慰霊碑が建てられていることも何か関係があるのでしょうか？境内には、10m以上続く大きな藤棚があり、その下にテーブルと椅子が設置されています。藤の花咲く頃にもう一度訪ねてみたいと思いました。



立派な馬頭観音堂

次に立ち寄ったのは、**瀬戸宗像神社**。市内のほかの宗像神社とちがって、紅く塗られた両部鳥居と本殿が特徴的です。本殿わきには、幹回り10mになる御神木がそびえており、思わず上を見上げてしまいます。鳥居の前の道を挟んだ正面に大きな塚があります。この塚には、大黒様を刻んだ**甲子塔**と梵字で書かれた曼荼羅を刻んだ**光明神咒供養塔**が建てられています。どちらも大変珍しく印西市内では、ここだけではないかと思われま



思わず見上げてしまう御神木

ここから畑の中の道を進み弁天池を目指しました。畑には収穫のために掘り起こした落花生が並べられているのどかな田舎の風景が広がっています。畑仕事をしている方とお話をした時に、「今歩いている道が、昔の道だよ！」と教えていただきました。江戸時代、佐倉と木下河岸を結ぶ重要な道の一つです。道幅は2m足らずで改めて昔の道の狭さを感じることができました。さらに進み落ち葉が降り積もった坂道を下ると10m四方の**弁天池**が現れました。池を渡る丸木の一本橋が特徴的です。ちょっと怖くて渡れませんでした。



弁天池の一本橋

長い坂道を登りきると高台から印旛沼を一望する風景が望めます。空には雲一つなく夕陽の絶景が期待できます。日の入りまで30分少々。それまで**合集山徳性院多門寺**（真言宗豊山派）を訪問してその時を待つことにしました。本寺は、江戸時代に眼下に広がる印旛沼の航路安全祈願のため、近隣寺院を併合して現在の地に建立されました。山門をくぐり左手にある観音堂に御本尊である十一面観世音菩薩が安置されています。お堂には鯿口でなく鈴が架かっているのが不思議ポイント。



徳性院の観音堂

いよいよ日の入りの時刻になり勇んでビューポイントに駆けつけると、富士山を隠すように地平線沿いに灰色の雲が広がっています。さっきまではなかったのに何で！少し切れた雲の隙間からオレンジ色の夕陽が顔を出してくれたことが一番の救いでした。数日後にはダイヤモンド富士が見られます。その時再チャレンジしたいと一同強く思った次第です。



雲がなければ夕陽の左側に富士山が見えるのですが…残念！